

### 後援会員より

フットワークが良くてなんでもすぐ動いて頂けるとは聞いていましたが、議員としての活動に驚いております。これからの議員の見方が変わるような人ではないでしょうか。

ご活躍をお祈り致します。  
阿諏訪地区 主婦より

# 新しい感性と若い行動力で 井上けんじは 結果を見せます。

## 県が依頼 3mに及ぶ雑草原野 遊休農地再生

平成18年2月、県の職員(農業改良普及員)から「西大久保耕地の荒れた田を、再生するのは困難ですか?」と問われました。

私も今まで多くの荒廃した田・畑を再生してきたが、木まで生えている状態は記憶にない。

「雑草の新芽が出る前に枯草粉砕し野焼きをすれば可能」の説明に、県の職員も「県としても協力するのは是非、手がけて頂けないか」と、今回の西大久保耕地(毛呂山高校より西側)の再生作業が毛呂山町水田推進協議会より依頼の形となり始まりました。

言うは易く行なうは難し、予想以上の雑草と木の抜根作業も加わり、時期も遅れたため新芽が出て雑草の焼却作業も順調にはいきませんでした。その上一番困難をきわめたのが、底無し沼のような湿田、農業機械が大型になればなる程、その機械の重さでもぐってしまい、通常の3〜4倍の労力と精神力を必要とするものです。この地域の方々が重労働と水の汚れで耕作をあきらめる理由を体をもって感じました。

水田として約8反(2千4百坪)畑として約3反(9百坪)年度末の3月までに残り4〜5反の再生でこの事業も達成されますが、この地域に「大久保耕地対策会」が発足し、今後毛呂山高校より東側の整備が行われる事は、大きな成果と言えるもので西大久保地区全体の発展へつながる事と確信するものです。西大久保耕地に携わる多くのの方々、関係機関、町担当課職員、ボランティア団体等の協力に心よりの感謝を申し上げます。



## 合併ができなくても提案から実践へ

「平成の大合併」も特例債の期限もすぎ、いわゆる「給と鞭」の給がなくなつた訳です。

地方交付税は減少し、税源移転によるフラット化で個人町民税の算定方式が見直され、所得の少ない家庭には特に重い税負担となつて参ります。

税収の減少から町予算も減少し、行政が決まって口にするのが「住民と協働の町づくり」です。

しかし「協働というお願い」をする前に、あらゆる行政改革を断行し、歳入確保策や歳出削減策を探究しなければなりません。その延長線上に合併があるからです。

平成18年6月23日、越生町で三町行政連絡会議が開かれました。

これは、三町のそれぞれの町長、助役、担当課長、議会側より議長、副議長が出席し、「三町の合併について」を議題としての会議でした。合併を推進する毛呂山町に対し、越生町は「まず合併ではなく、将来の合併を視野に入れながら単独で生きる道を探るのが先決」と示し、鳩山町は、「三町合併を鳩山町民は望んでいない、坂戸・鶴ヶ島市を含む二市三町での合併を考えたい」という方向性を示したのです。

これにより今まで考えられていた三町の合併は事実上「棚上げ」となりました。

これからは、町あるいは市という枠があつても自治体どうしで構成している組合議会の結びつき、また友好的な事業の促進などを通して自然な流れで合併ができるよう働きかけていく事が大切と考えます。

例えば三町で共通している中山間地域の立地を生かし、農業から特産品、そして観光と結びつけていくのも一案です。毛呂山町の大豆とそばの生産で、鳩山町の進めている大豆の特産品協力ができます。

越生と毛呂山の駅名より共通する武州を用いて「武州そば」の産地化も考えられます。

農地の活用から農業が活性化され環境が守られます。農産物から特産品が生まれ商業そして観光が促進されます。観光から人が訪れ交通機関の整備も計られていくのです。

「鞭だけが残った行政運営」かもしれないませんが、農・工・商・サービス業の異業種のさまざまな結びつきで、将来の合併に向けどうしの更なる共存共栄の働きかけを全力ですすめて参ります。



## NPO 仲間と設立 環境と福祉を育てる会



平成15年環境と福祉を育てる会

行政批判ばかりでは、町の発展はあり得ません。三位一体の改革が進み税源移譲の間、地方への交付税、交付金は減少の一途です。協働のまちづくりのためにも、税財源への負担を減らし自分達でできる事は自分達で、それがこれからの町づくりです。

※現在法人申請を行っております。

### 連絡先

夜のみ ☎294・4581 岡部  
昼のみ ☎294・2932 吉岡



あいあい園夕涼み会参加協力



鎌北湖 ゴミ拾い

井上けんじのホームページのアクセスについて  
Google(グーグル)なら、  
もっといいまちへ で検索すると  
すぐにアクセスできます。